

科 目 名	看護形態機能論Ⅰ	単位数	1	時 間 数	30
講 師 名	専任教員 病院看護師	実務経験	有	履修年次	1 年
科 目 概 要	わたしたちの体は外や内の変化に対応して安定を維持する方法を備えている。からだの安定性が保たれていれば、からだを作っている細胞一つ一つがその細胞の機能を果たし、その細胞が属する組織や器官が目的とするはたらきを全うできる。そのためには、からだの内部にどんな条件が必要か学ぶ。				
学 習 目 標	1. 何ための生活行動か理解する。 2. 恒常性維持のための物質の流通について理解する。				
授 業 計 画	学習内容	授業方法	時間	担当	
	1. 何のための生活行動か 1) 生きているとはどういうことか	講義 小テスト	2H	専任教員	
	2) 個体を外界から区別するもの		2H		
	3) 内部環境の恒常性 (1) 体液の分類と量		2H		
	(2) 体液の電解質		2H		
	(3) 血漿のpH (4) 動脈血の酸素分圧 (5) 血漿の糖分 (6) 体温		3H		
	4) 生命維持と生活行動				
	TBL ①	試験	2H	病院看護師	
	筆記試験 ②		1H		
	まとめ	講義	1H		
2. 恒常性維持のための物質の流通 1) 血液 (1) 血液の恒常性維持 (2) 物質の運搬 (3) 侵入物に対する防衛 (4) 血液凝固 2) 血管・リンパ管・脾臓 3) 循環	講義 小テスト	14H			
筆記試験 ③	試験	1H			
評 価 方 法	筆記試験 何のための生活行動か ① 5点 ② 45点 恒常性維持のための物質の流通 ③ 50点				
テ キ ス ト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 (医学書院)				
参 考 文 献	看護形態機能学 生活行動からみるからだ (日本看護協会出版会) 看護につなげる形態機能学 (メヂカルフレンド社)				
担当教員からのメッセージ 学習したら看護が見えるようになるようになることが、理解です。早期のうちに理解する経験ができることを願ってやみません。					

科 目 名	看護形態機能論Ⅱ	単位数	1	時 間 数	30
講 師 名	専任教員 病院看護師	実務経験	有	履修年次	1 年
科目の概要	わたしたちの日々の生活行動は、外部環境からの刺激をとらえ適切な反応をして身の安全を図っている。また、刻々と変化する内部環境の状態をとらえ、その変化に反応して恒常性を維持している。その仕組みを学ぶ。 からだが動く仕組みを学ぶ。からだ全体を移動させること、あるいはからだの一部を動かすことができなくなったら、わたしたちの生活はどうなるか考える。				
学 習 目 標	1. 恒常性維持のための調節機構を理解する。 2. からだが動く仕組みを理解する。				
授 業 計 画	学習内容	授業方法	時間	担当	
	1. 恒常性維持のための調節機構 1) 神経性調節 (1) 受容器 (2) 中枢神経 (3) 末梢神経 (4) 情報伝達 2) 液性調節 (1) ホルモンの作用機序 (2) ホルモン分泌の調節 (3) 恒常性維持のためのホルモンの働き 3) ストレスと恒常性維持	講義 小テスト	18 H	病院 看護師	
	筆記試験	試験	1 H		
	2. 動く 1) 骨の形態機能についてわかる 2) 骨格筋の構造・作用・神経支配についてわかる 3) 筋の収縮についてわかる 4) 上肢の骨格と筋・その運動についてわかる 5) 体幹の骨格と筋についてわかる 6) 頭頸部の骨格と筋についてわかる 7) 下肢の骨格と筋・その運動についてわかる	講義	10 H	専任 教員	
	筆記試験	試験	1 H		
評 価 方 法	筆記試験 ①恒常性維持のための調節機構 60 点 ②動く 40 点				
テ キ ス ト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 (医学書院)				
参 考 文 献	看護形態機能学 生活行動からみるからだ (日本看護協会出版会)				
担当教員からのメッセージ 体をわかることで、生活にどのような影響があるのかと考えてもらいたいです。そのためには、覚えることは覚える必要があるなので、復習して自分力にしましょう。					

科 目 名	看護形態機能論Ⅲ	単位数	1	時 間 数	30
講 師 名	専任教員	実務経験	有	履修年次	1 年
科 目 概 要	人間が生きていくために必要な栄養摂取器官としての消化器系の構造と機能を学ぶ。また、トイレに行くという排泄経路としての役割だけでなく、人体の水・電解質バランスの調節をする腎・泌尿器系を学ぶ。そして、生きていくために欠かせない息をするという呼吸器系の構造と機能を学ぶ。				
学 習 目 標	1. 消化器系の形態と機能を理解する 2. 腎・泌尿器・男性生殖器の形態と機能を理解する 3. 呼吸機能に関する器官の構造と機能を理解する				
授 業 計 画	学習内容	授業方法	時間	担当	
	1. 食べる 1) 食欲 2) 食行動 3) 咀嚼し味わう 4) 飲み込む 5) 消化と吸収 6) 何をどれだけ食べるか	講義 小テスト グループワーク 動画視聴	12H	専任 教員	
	筆記試験①	試験	1H		
	2. トイレに行く 1) 排尿 (1) 尿意 (2) 排尿 (3) 尿の生成 (4) 体液量調節の機構 2) 排便 (1) 便意 (2) 排便 3. 息をする 1) 息を吸う・息を吐く 2) ガス交換	講義 小テスト グループワーク (肺のイラスト) 動画視聴	16H	専任 教員	
	筆記試験②	試験	1H		
評 価 方 法	筆記試験 ①50 点 ②50 点				
テ キ ス ト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 (医学書院)				
参 考 文 献	看護形態機能学 生活行動からみるからだ (日本看護協会出版会)				
担当教員からメッセージ 自分の身体をイメージするとより覚えやすくなると思います。わからない言葉は調べておきましょう。1回の授業ではとても覚えられないので、予習復習をしていきましょう。 初回の授業では、無地白 T シャツを使ったグループワークを行いますので、準備しておいてください。					

科 目 名	看護形態機能論Ⅳ	単位数	1	時 間 数	15
講 師 名	専任教員	実務経験	有	履修年次	1 年
科 目 概 要	わたしたちは普段、からだを意識せずに生活している。この科目では、話す・聞く、眠る、お風呂に入るという生活と結び付けて感覚器・皮膚の構造と仕組みを学ぶ。 また、人間は子孫を残す能力が備わっている。性生殖器、遺伝子、ホルモン、妊娠の構造と仕組みについて学ぶ。				
学 習 目 標	1. 感覚器系の形態と機能を理解する 2. 睡眠の意味とそれに関わる器官の形態と機能を理解する 3. 皮膚の形態と機能を理解する 4. 性生殖器の形態と機能、妊娠に関わるホルモンの働きを理解する				
授 業 計 画	学習内容	授業方法	時間	担当	
	1. 話す・聞く 1) 声を出す 鼻咽喉～口腔、声帯の構造・機能 発声・構音・調音 味覚・嗅覚 2) 聞く 耳の構造・機能 3) 言語の理解 2. 見る・睡眠 1) 見る 目の構造・機能 2) 睡眠と脳の働き、記憶 3. 皮膚 1) 皮膚の構造と付属物 2) 皮膚と粘膜 3) 皮膚の感覚 4. 生殖器 1) 男と女 2) 遺伝子組み換え 3) 性交と受精 4) 生殖を支えるホルモン	講義 動画視聴 グループワーク まとめテスト	14H	専任教員	
評 価 方 法	筆記試験			1H	
テ キ ス ト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学（医学書院）				
参 考 文 献	看護形態機能学 生活行動からみるからだ （日本看護協会出版会）				
担当教員からメッセージ 感覚器は普段意識しない体の仕組みなので、身近な例を紹介しながら授業を進めていきます。自分の体で確認しながら、学んでいきましょう。 解剖生理はたくさんの単語や構造が出てきて苦手意識を持ちやすいですが、絵を描くとイメージしやすくなります。自分なりにイラストを描いて覚えていきましょう。					

科 目 名	看護病態論総論	単位数	1	時 間 数	30
講 師 名	病院医師	実務経験	有	履修年次	1 年
科目の概要	病態の基礎となる病因と病変の特徴を理解する。				
学 習 目 標	1. 病理学の概念について理解する 2. 病気の原因と変化について理解する				
授 業 計 画	学習内容	授業方法		時間	担当
	1. 病理学概論	講義		1H	病院 医師
	2. 細胞・組織とその障害			2H	
	3. 再生と修復			1H	
	4. 循環障害			3H	
	5. 炎症			3H	
	6. 感染症			3H	
	7. 免疫とアレルギー			4H	
	8. 代謝異常			2H	
	9. 老化と老年病			1H	
	10. 新生児の病理			1H	
	11. 先天異常			1H	
	12. 腫瘍			6H	
	13. 生命の危機			1H	
評 価 方 法	筆記試験			1H	
テ キ ス ト	カラーで学べる病理学 （ヌーベルヒロカワ）				
参 考 文 献	NEWエッセンシャル病理学（医歯薬出版）				
担当教員からメッセージ この科目では、病理学総論を学びます。病理学イコール病気学です。人体の全ての臓器に通じる病気の原理・原則を学んでください。					

科 目 名	看護病態論 脳神経・感覚器	単位数	1	時 間 数	30
講 師 名	病院医師 専任教員	実務経験	有	履修年次	1 年
科 目 概 要	看護病態論では、各器官に障害が起きた時、どのような状態になるかを理解し、回復を助けるためにはどうすればよいのかを学ぶ。この科目では、脳神経系、感覚器系の代表的な疾患の原因、病態生理、症状、検査、治療、について学ぶ。				
学 習 目 標	1. 脳神経系の主な疾患の病態と検査・治療について理解する 2. 感覚器系の主な疾患の病態と検査・治療について理解する				
授 業 計 画	学習内容		授業方法	時間	担当
	1. 脳神経系 1) クモ膜下出血、脳出血、脳梗塞、脳腫瘍、頭部外傷、慢性硬膜下出血、脳の感染症、症候性てんかん 正常圧水頭症の病態生理、症状、検査治療		講義	8 H	病院 医師
	筆記試験 1-1)			1 H	
	2) ①ALS、神経・筋疾患の病態生理、症状、検査、治療		講義	2 H	病院 医師
	②パーキンソン病、認知症（アルツハイマー病、血管性認知症、レビー小体型認知症）など 脳血管疾患の病態生理、症状、検査、治療		講義	3 H	病院 医師
	確認テスト			2 H	専任教員
	筆記試験 1-2) ①、②			1 H	病院医師
	2. 感覚器系 難聴、メニエール病など 緑内障、白内障、網膜症など 皮膚炎、蕁麻疹、腫瘍、褥瘡などの病態生理、 症状、検査、治療。		講義	12 H	病院 医師
	筆記試験			1 H	
評 価 方 法	筆記試験 1 脳神経系（1－1）：30 点 2) ①ALS、②パーキンソン病など：25 点） 2 感覚器系（1. 眼科：15 点 2. 皮膚科：15 点 3. 耳鼻科：15 点）				
テ キ ス ト	系統看護学講座	専門分野	成人看護学 [7]	脳・神経	（医学書院）
	系統看護学講座	専門分野	成人看護学 [12]	皮膚	（医学書院）
	系統看護学講座	専門分野	成人看護学 [13]	眼	（医学書院）
	系統看護学講座	専門分野	成人看護学 [14]	耳鼻咽喉	（医学書院）
参 考 文 献					
担当教員からのメッセージ					
看護形態機能論の復習をして臨みましょう。わからない言葉を自分で調べることが、力をつける近道です。					

科 目 名	看護病態論 循環器・呼吸器	単位数	1	時 間 数	30
講 師 名	病院医師 専任教員	実務経験	有	履修年次	1 年
科目の概要	循環器系、呼吸器系の主な病気の成り立ちと検査・治療について学ぶ。この系統の器官は、密接に協力しながら生命維持のために機能しているため、病態や症状などについて関連が大きい。代表疾患の成り立ちと回復を促進させる治療について理解する。				
学 習 目 標	1. 主な循環器系疾患の成り立ちと症状・検査・治療を理解する 2. 主な呼吸器系疾患の成り立ちと症状・検査・治療を理解する				
授 業 計 画	学習内容	授業方法	時間	担当	
	1. 循環器疾患の成り立ちと症状、検査、治療 1) 虚血性心疾患 2) 心不全 3) 血圧の異常 4) 不整脈 5) 弁膜症 6) 先天性心疾患 7) 動脈系疾患	講義	14 H	病院 医師	
	筆記試験 ①	試験	1 H		
	2. 呼吸器系疾患の成り立ちと症状、検査、治療 1) 呼吸器の構造と機能の復習	確認テスト	1 H	専任教員	
	2) 感染症 3) 間質性肺炎 4) 気道疾患 5) 肺腫瘍 6) 肺血栓塞栓症 7) 胸膜、縦膜、横隔膜の疾患 8) 呼吸不全	講義	11 H	病院 医師	
	9) 疾患の成り立ちと症状、検査、治療まとめ	確認テスト	2 H	専任教員	
	筆記試験 ②	試験	1 H	病院医師	
評 価 方 法	筆記試験 ① 循環器系 50 点 ② 呼吸器系 50 点				
テ キ ス ト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [2] 呼吸器 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [3] 循環器 (医学書院)				
参 考 文 献	瀬戸信二著 『JUN ブックス循環器疾患ナースング』 (医学書院) 長谷川素美著 『ナースンググラフィカ 呼吸・循環器障害』 (メディカ出版)				
担当教員からのメッセージ 講義開始時には看護形態機能論のノートまたはファイルを持参し、復習して病態の理解を高めましょう。					

科 目 名	看護病態論 内分泌	単位数	1	時 間 数	15
講 師 名	専任教員	実務経験	有	履修年次	1 年
科 目 概 要	看護病態論では人間の各臓器に身体的あるいは精神的な障害が起こった場合に、その患者がいかなる状態におかれるかを理解し、その患者のニーズを満たし、回復を助けるためにはどうすれば良いのかを学ぶ。特にこの科目では内部環境を維持・調節するしくみ、つまり内分泌系を障害する代表疾患の成り立ちと回復を促進させる治療について理解する。				
学 習 目 標	1. 内分泌系の主な疾患の病態と主な検査・治療について理解する				
授 業 計 画	学習内容	授業方法	時間	担当	
	1. 内分泌系の主な疾患の病態と主な検査・治療	講義 事前課題 個人ワーク	2H	専任 教員	
	1)下垂体疾患 （事前課題：視床下部-下垂体の形態・機能） (1)下垂体腫瘍	講義 グループワーク	2H		
	2)甲状腺疾患（事前課題：甲状腺・副甲状腺の形態・機能） (1)バセドウ病 (2)橋本病 (3)甲状腺腫 3)副甲状腺疾患 (1)機能亢進症 (2)機能低下症	講義 グループワーク 小テスト(5 点)	2H 2H		
	4)副腎疾患 (1)クッシング症候群 (2)アルドステロン症 (3)機能低下症	講義 グループワーク 小テスト (5 点)	2H		
	5) 代謝疾患：糖尿病の病態と主な検査・治療	講義 グループワーク 小テスト(5 点)	2H		
	まとめ	小テスト (5 点) 講義	1H		
	筆記試験	試験	1H		
	振り返り	講義	1H		
	評 価 方 法	筆記試験（80 点）＋各小テスト 5 点×4 回（20 点）			
テ キ ス ト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [6] 内分泌・代謝 （医学書院）				
参 考 文 献	病気がみえる（3）第 4 版 糖尿病・代謝・内分泌（医療情報科学研究所 著メディックメディア） エビデンスに基づく 糖尿病・代謝・内分泌看護ケア関連図 （中央法規）				
担当教員からメッセージ 内容は形態機能論の知識から、各臓器に問題が生じた病気について説明していきます。形態機能論については、授業前に事前課題をだしますので各自予習をしてから授業に臨みましょう。 目には見えない内分泌ですがイメージしやすいような授業を心がけますので理解を目指しましょう。					

科 目 名	看護病態論血液・膠原アレルギー・感染症	単位数	1	時 間 数	15
講 師 名	病院医師	実務経験	有	履修年次	1 年
科目の概要	血液系、膠原アレルギー系の主な病気の成り立ちと検査・治療について学ぶ。血液・造血器疾患には、難病指定の疾患や悪性腫瘍など、原因が不明なもの、長期間にわたり苦痛を伴う治療を要する物が多い。アレルギー疾患は幅広い年代に罹患する。その症状の軽重はさまざまである。アレルギー疾患による医療機関の受診者数は、年々増加傾向にある。 それぞれの代表疾患の成り立ちと回復を促進させる治療について理解する。				
学 習 目 標	1. 主な血液疾患の成り立ちと症状・検査・治療を理解する 2. 主な膠原アレルギー疾患、感染症の症状・検査・治療を理解する				
授 業 計 画	学習内容	授業方法	時間	担当	
	1. 血液疾患の成り立ちと症状、検査、治療 1) 赤血球系の疾患 2) 白血球系の疾患 3) 異常タンパク血症 4) 出血性疾患	講義	7H	病院 医師	
	筆記試験	試験	1 H		
	2. 膠原アレルギー疾患・感染症の症状、検査、治療 1) アレルギー疾患 2) 膠原病 3) 膠原病類縁疾患 4) 感染症	講義	6H	病院 医師	
	筆記試験	試験	1 H		
	評価方法	筆記試験 1. 血液系：レポート、筆記試験合わせて 50 点 2. 膠原アレルギー系：50 点			
テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [4] 血液・造血器、(医学書院) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [11]アレルギー 膠原病 感染症(医学書院)				
参考文献					
担当教員からのメッセージ 講義開始時には系統別に整理した看護形態機能論のノートまたはファイルを持参してください。					

科 目 名	看護病態論 腎・泌尿器・女性生殖器	単位数	1	時 間 数	15	
講 師 名	専任教員	実務経験	有	履修年次	1 年	
科 目 概 要	看護病態論では、人間の各臓器に身体的あるいは精神的な障害が起こった場合に、その患者がいかなる状態におかれるかを理解し、その患者のニーズを満たし、回復を助けるためにはどうすれば良いのかを学ぶ。特にこの科目では、内部環境を維持・調節するしくみや生殖機能・乳房・腎臓・泌尿器を障害する代表疾患の成り立ちと回復を促進させる治療について理解する。					
学 習 目 標	1. 腎・泌尿器・生殖器系の主な疾患の病態と主な検査・治療について理解する 2. 女性生殖器・乳房疾患の主な疾患の病態と主な検査・治療について理解する					
授 業 計 画	学習内容	授業方法	時間	担当		
	1. 女性生殖器・乳房の疾患の病態と検査・治療 1) 生殖機能障害（月経異常・更年期障害） 2) 女性生殖器の疾患 （子宮筋腫・子宮内膜症・卵巣嚢腫）	形態・機能知識 確認テスト 講義 小テスト	2H	専任教員		
	3) 腫瘍（手術療法・薬物療法・放射線療法） ①子宮体癌・子宮頸癌・卵巣癌 ②乳がん 4) ライフステージに与える影響について考える	形態・機能知識 確認テスト 講義 関連図作成 動画	5H			
	2. 腎臓・泌尿器系の疾患の病態と主な検査・治療 1) 腎・泌尿器の主な疾患（腎不全、腎臓がん） 2) 腫瘍（膀胱がん 前立腺がん、前立肥大症） 3) ネフローゼ症候群 4) 透析療法	形態・機能知識 確認テスト 講義 小テスト	6H			
	筆記試験	終講試験	1H			
	振り返り	講義	1H			
	評価方法		筆記試験			
	テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [8] 腎・泌尿器（医学書院） 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [9] 女性生殖器（医学書院） 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学（医学書院）				
参考文献	病気が見える Vol.8 腎・泌尿器 病気が見える Vol.9 婦人科・乳腺外科					
担当教員からのメッセージ						
内容は形態機能論での知識を元にして、さらに各臓器に問題が生じた病気について説明していきます。授業に入る前に各形態機能論の知識を再確認しておきましょう。						

科 目 名	看護病態論 運動器・消化器	単位数	1	時 間 数	30
講 師 名	専任教員	実務経験	有	履修年次	1 年
科 目 概 要	看護病態論では、各器官に障害が起きた時、どのような状態になるかを理解し、回復を助けるためにはどうすればよいのかを学ぶ。この科目では、骨・関節・筋肉系、消化器系を障害する代表的な疾患の原因、病態生理、症状、検査、治療、について学ぶ。				
学 習 目 標	1. 骨・関節・骨格筋系の主な疾患の病態と検査・治療について理解する 2. 消化器系の主な疾患の病態と主な検査・治療について理解する				
授 業 計 画	学習内容	授業方法	時間	担当	
	1. 骨・関節・筋肉系 1) 骨折（大腿骨頸部骨折・骨盤骨折）、脱臼、捻挫	講義	4H	専任教員	
	2) 末梢神経障害（橈骨神経麻痺、フォルクマン拘縮） 3) 筋肉・腱・靱帯の損傷 （コンパートメント症候群、アキレス腱断裂、前十字靱帯損傷）	講義	3H		
	4) 変形性疾患 （変形性膝関節症、変形性股関節症） 杖歩行、松葉杖歩行、歩行器歩行 ROM・MMT	講義・演習	3H		
	5) 腫瘍（骨腫瘍） 6) 四肢の切断術	講義	2H		
	7) 脊椎疾患（腰部脊柱管狭窄症、腰椎椎間板ヘルニア） コルセット装着	講義	2H		
	筆記試験（運動器）①	試験	1H		
	2. 消化器系の主な疾患の病態と主な検査・治療 1) 食道の主な疾患①食道がん②胃食道逆流症	講義 復習テスト	2H	専任教員	
	2) 胃・十二指腸腸疾患①胃・十二指腸潰瘍②胃がん	講義 復習テスト	2H		
	3) 大腸及び腹膜疾患①虫垂炎②潰瘍性大腸炎 ③大腸がん④イレウス	講義 復習テスト	3H		
	4) 肝臓の疾患①肝炎②肝硬変③肝臓がん	講義 復習テスト	3H		
	5) 胆嚢の疾患①胆石②胆嚢炎	講義 復習テスト	2H		
	6) 膵臓の主な疾患①膵炎②膵臓がん	講義 復習テスト	2H		
	筆記試験（消化器）②	試験	1H		
評価方法	筆記試験 ①50点 ②50点				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [10] 運動器 （医学書院） 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [5] 消化器 （医学書院）				
参考文献	病気が見える vol.11 運動器・整形外科 （メディックメディア）				
担当教員からのメッセージ					
形態機能論Ⅰ、Ⅲで学習した知識が基礎になります。形態機能論の復習をして授業に臨みましょう					

[illegible]

科 目 名	気づきトレーニング	単位数	1	時 間 数	15
講 師 名	専任教員	実務経験	有	履修年次	1 年
科目の概要	高度化、また地域へ移行が進む医療現場では、看護師の臨床判断能力の向上が求められる。看護の対象となる人々をどのように理解し、ケアを実践すればいいのか臨床判断モデル（「気づき」「解釈する」「反応する」「省察する」）を通して臨床判断能力を身につける。この科目は、「気づき」「解釈する」「反応する」にフォーカスをあてている。				
学 習 目 標	1. 臨床判断能力が理解できる。 2. 「気づき」「解釈」「反応する」ができる。				
授 業 計 画	学習内容	授業方法	時間	担当	
	1. 臨床判断能力とは ① タナーの臨床判断モデル ② 「知識・技術の活用の仕方の理解」 ※1. 振り返りシート記入（評点 10 点）	講義 LTD 話し合い 学習法	5H	専任教員	
	2. 臨床判断能力を育成する、思考をはぐくむ 1) 動画をつかって「気づき」「解釈する」「反応する」のトレーニング コンセプト：「移動、排泄」「清潔」「食事」 ※2. 「移動、排泄」「清潔」の振り返りシート記入（評点各 10 点） ※3. 「気づきトレーニング」を通しての学びをレポートにまとめる※2	机上シミュレーション演習 （グループワーク）	10H		
評 価 方 法	※1. 2. 振り返りシート 10 点×3＝30 点 ※3. レポート 70 点				
テ キ ス ト					
参 考 文 献	三浦友理子他「臨床判断ティーチングメソッド」（医学書院）				
担当教員からのメッセージ 教科書的な知識がないと「きづく」ことはできません。事前課題を通して、ここまでに学んだ知識を復習し、授業に臨みましょう。					

科 目 名	微生物学	単位数	1	時 間 数	15		
講 師 名	病院臨床検査技師	実務経験	有	履修年次	2 年		
科目の概要	微生物の特徴と生態に及ぼす影響を理解し、その対応方法を知る。						
学 習 目 標	1. 微生物と病原微生物について知る 2. 微生物の人体に及ぼす影響について理解する 3. 感染予防の重要性について理解し、安全対策について知る						
授 業 計 画	学 習 内 容	授 業 方 法		時間	担当		
	1. 微生物の概念と変遷 2. 消毒・滅菌 3. 感染と予防 4. 免疫	講義		4H	病院 臨床検 査技師		
	5. ワクチン及び予防接種 6. 化学療法			2H			
	7. 細菌学的検査 8. 細菌学各論			2H			
	9. ウイルス学			2H			
	10. 真菌学			2H			
	11. 原虫学			2H			
	評 価 方 法			筆記試験		1H	
	テ キ ス ト			系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[4] 微生物学 (医学書院)			
参 考 文 献							
担当教員からのメッセージ							

科 目 名	薬理学	単位数	1	時 間 数	30
講 師 名	病院薬剤師	実務経験	有	履修年次	2 年
科目の概要	薬物の特徴、作用機序、人体への影響及び薬物の取扱い・管理について理解する。				
学 習 目 標	1. 薬物の種類とその作用機序について学習する 2. 薬物の使用目的と方法について理解する 3. 薬物の副作用について理解する 4. 薬物の取扱いや管理について理解する				
授 業 計 画	学習内容	授業方法		時間	担当
	1. 総論 2. 薬理学各論 1) 抗感染症薬 2) 抗がん剤 3) 免疫治療薬 4) 抗アレルギー薬・抗炎症薬 5) 末梢での神経活動に作用する薬物 6) 中枢神経系に作用する薬物 7) 心臓・血管系に作用する薬物 8) 呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物 9) 物質代謝に作用する薬物 10) 皮膚科用薬・眼科用薬 11) 救急の際に使用される薬物 12) 漢方薬 13) 消毒薬	講義		29H	病院 薬剤師
評 価 方 法	筆記試験			1H	
テ キ ス ト	統計看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[3]薬理学（医学書院） 看護学生のための薬理学ワークブック（医学書院）				
参 考 文 献					
担当教員からのメッセージ					

科 目 名	栄養学	単位数	1	時 間 数	15
講 師 名	病院管理栄養士	実務経験	有	履修年次	2 年
科目の概要	人間にとっての栄養の意義について認識し、食事療法の基本について理解する。				
学 習 目 標	1. ライフステージにあった栄養素を理解する 2. 食事療法の実際について理解する				
授 業 計 画	学習内容	授業方法		時間	担当
	1. 栄養素の栄養的意味 2. ライフサイクルと栄養 3. 臨床栄養 1) 食事療法の意義 2) 治療食の種類と分類 3) 食事療法のすすめ方 4) 食事療法の実際	講 義 調理実習		14H	病 院 管 理 栄養士
評 価 方 法	筆記試験			1H	
テ キ ス ト	統計看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[3] 栄養学 (医学書院)				
参 考 文 献					
担当教員からのメッセージ 自分の生活をイメージして、食事の意味を考えていきましょう					

科 目 名	保健医療	単位数	1	時 間 数	30
講 師 名	外部講師	実務経験	有	履修年次	1 年
科目の概要	保健福祉医療の現状から、健康における課題がわかり、包括的な保健医療活動を理解する。				
学 習 目 標	1. 人々の健康を保持増進していく必要性がわかる 2. 拡大する人々の健康のニーズを理解する 3. 保健医療福祉における問題とその背景を理解する 4. 医学の発展の歴史と医療の変遷が理解できる 5. 現代の医療の諸問題が理解でき、医の倫理と看護のあり方が考えられる				
授 業 計 画	学習内容	授業方法		時間	担当
	1. 健康と健康のニーズ 2. 医療経済高騰化への対応 3. 施設内医療から地域医療へ 4. 入院期間の短縮化と在宅医療の重視 5. 保健・医療・福祉の連携 6. 医療とは 7. 医学の発達と歴史 8. 新しい医療システム 9. 現代医学と看護のあり方	講義		29H	外部講師
評 価 方 法	レポート 30 点 筆記試験 70 点			1H	
テ キ ス ト	現代医療論（メヂカルフレンド社）				
参 考 文 献					
担当教員からメッセージ					

科 目 名	公衆衛生	単位数	1	時 間 数	15
講 師 名	長野県諏訪保健福祉事務所長 専任教員	実務経験	有	履修年次	2 年
科目の概要	公衆衛生に関連する基礎知識や考え方を理解し、組織的な保健活動について学び看護の役割について理解する。				
学 習 目 標	1. 公衆衛生の概要がわかる。 2. 公衆衛生の仕組みがわかる。 3. 集団の健康をとらえるための手法がわかる。 4. 健康を守るシステムがわかる。 5. 諏訪圏域における公衆衛生の実際がわかる。				
授 業 計 画	学習内容	授業方法	時間	担当	
	1. 公衆衛生の概要 1) 公衆衛生とは 2) 公衆衛生の活動対象	講義	2H	専任教員	
	2. 公衆衛生の仕組み 1) 政策 2) 国と地方自治体の役割 3) 多職種との協働 4) 住民との協働		2H		
	3. 集団の健康をとらえるための手法がわかる 1) 疫学 2) 保健統計		2H		
	4. 健康を守るシステムがわかる 1) 感染症 2) 成人保健（生活習慣病）		2H		
	4) 高齢者保健 5) 精神保健 6) 障害者保健・難病保健		2H		
	7) 学校保健 8) 産業保健 9) 災害保健		2H		
	5. 諏訪保健福祉事務所の取り組み		2H	諏訪保健福祉事務所長	
評 価 方 法	筆記試験			1H	
テ キ ス ト	系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生（医学書院）				
参 考 文 献	国民衛生の動向（厚生労働統計協会） 公衆衛生がみえる（メディックメディカ） シンプル公衆衛生学（南江堂）				
担当教員からのメッセージ 個人の健康から地域、健康レベルの高い対象に対する健康の保持増進・疾病予防に重きをおいて学習します。					

科 目 名	地域保健	単位数	2	時 間 数	45
講 師 名	外部講師 専任教員	実務経験	有	履修年次	3 年
科 目 概 要	個人の健康問題の解決を図るために地域を見る視点は不可欠である。ここでは、地域の現状と課題を調査研究により体験的に見出すことを学ぶ。				
学 習 目 標	1. 地域の健康を保持増進するための問題解決思考が理解できる。 2. 国・県・市町村までの施策とそれに関連する法律が理解できる。 3. 地域の特徴、保健福祉活動が理解できる。 4. 保健医療福祉活動の実際が体験できる。 5. 保健医療福祉活動を通し看護職の役割について考えることができる。 6. 地域包括ケアとは何かがわかる。				
授 業 計 画	学習内容	授業方法	時間	担当	
	1. オリエンテーション	講義	1H	専任教員	
	2. ガイダンス 1) 地域における問題解決思考 (1) 地域を知る必要性 (2) 地域をアセスメントする視点		2H	外部講師	
	3. 地域の概要を知る-調査 4. 必要と思われるシステムを考える 5. 住民のニーズとシステムとの整合性を確認する 6. 調査内容から看護師の役割を考える 7. 資料をまとめる（パワーポイント） 8. 発表・質疑応答を受けて看護師の役割を深める	グループワーク フィールドワーク	19H	専任教員	
		中間報告会	3H	外部講師 専任教員	
		追加調査・考察	15H	専任教員	
		発表会	3H	外部講師 専任教員	
		レポート他	2H	専任教員	
評 価 方 法	レポート				
テ キ ス ト					
参 考 文 献	国民衛生の動向 長野県衛生年報 看護研究のテキスト・授業資料				
担当教員からのメッセージ 地域を対象に調査研究を行うことにより、地域の実情、課題を知りましょう。 フィールドワークの面白さ、楽しさを体験しましょう。					

科 目 名	社会福祉	単位数	1	時 間 数	30
講 師 名	病院社会福祉士	実務経験	有	履修年次	3 年
科目の概要	保健医療における福祉の概念、社会福祉制度、社会保障について学び、社会資源の活用、社会福祉サービスの必要性を理解する。				
学 習 目 標	1. 社会福祉の概念を理解する 2. 社会福祉制度の概要を理解する 3. 看護と社会福祉の関連を理解する 4. 社会保障制度を看護活動に活用できる				
授 業 計 画	学習内容	授業方法	時間	担当	
	1. 社会保障制度と社会福祉 2. 現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向 3. 医療保障 4. 介護保障 5. 所得保障 6. 公的扶助 7. 社会福祉の分野とサービス 8. 社会福祉実践と医療・看護・歴史	講義	29H	病院 社会 福祉士	
評 価 方 法	筆記試験			1H	
テ キ ス ト	統計看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[3] 社会保障・社会福祉 （医学書院）				
参 考 文 献					
担当教員からのメッセージ					

科 目 名	看護関係法規		単位数	1	時 間 数	30
講 師 名	長野県諏訪保健福祉事務所 長野県南信労政事務所 長野県諏訪地域振興局 病院社会福祉士 専任教員		実務経験	有	履修年次	3 年
科目の概要	保健医療福祉をつかさどる法律を学び、看護師の責任・義務について法律との関係を理解する。					
学 習 目 標	1. 看護職に必要な法規について理解する。 2. 法規を通して、看護職の果たす役割を自覚する。 3. 看護職を取り巻く法律について理解する。					
授 業 計 画	学習内容		授業方法	時間	担当	
	1. 法規の概念		講義	6 H	専任教員	
	2. 医事法規			諏訪保健福祉事務所		
	3. 薬務法規					
	4. 保健衛生法規					
	5. 福祉法規			2 H		
	6. 労働法規			2 H	南信労政事務所	
	7. 環境法規			2 H	諏訪地方事務所	
	8. 福祉関係法規			2 H	病院社会福祉士	
	9. 関係法規まとめ			確認テスト	9 H	専任教員
評 価 方 法	筆記試験			1 H		
テ キ ス ト	統計看護学講座 専門基礎分野 看護関係法令（医学書院）					
参 考 文 献	看護をめぐる法と制度 健康支援と社会保障④ （メディカ出版） 関係法規 （メヂカルフレンド社） 看護のための法学 自律的・主体的な看護をめざして （ミネルヴァ書房） 社会保障＆関係法規（メディカ出版） 国民衛生の動向 （厚生労働統計協会）					
担当教員からのメッセージ 法律とは何か。看護との関連や、看護職としてなぜ法律の知識が必要なのか。考える機会とし、 順法の精神を養って欲しいと思います。 国家試験の頻出分野です。基礎知識として身につけておきましょう。						